

研究活動報告

日本人口学会2018年度中部地域部会

2018年度中部地域部会は、2018年12月8日(土)、南山大学名古屋キャンパス(名古屋市)で開催された。参加者は報告者を含めて8名であり、5本の報告があった。報告のテーマは、出産意欲、小地域別患者数、鉄道沿線の人口変動、外国人労働者、親元同居と多岐にわたっており、それぞれ活発な議論が交わされた。ただし、報告者がすべて関東からの出席ということもあり、中部地域に関連する報告が少なかったことは課題かもしれない。ちなみに、報告者と報告タイトルは下記の通り。

1. 松浦 司(中央大学)“Fertility Intention and Birth Behavior: An Analysis using Japanese and Korean Data”
2. 片山 梨奈(青山学院大学)井上孝(青山学院大学)「関東地方における小地域別慢性腎不全患者数の将来推計(2015-60年)」
3. 小松 真治(青山学院大学)井上孝(青山学院大学)「東急電鉄沿線における人口変動と少子高齢化の展望—2010~60年—」
4. 佐々井 司(国立社会保障・人口問題研究所)「近年における外国人労働者の動向~中部地方の状況を中心に~」
5. 吉田 俊文(慶應義塾大学)「親元同居率の趨勢—国勢調査(1975-2015)を用いた二次分析」
(佐々井 司 記)

特別講演会 (Willem Adema 博士)

2019年3月19日(火)10:30~11:30 厚生労働省専用22会議室において、ウィレム・アダマ博士(OECD シニアエコノミスト)による特別講演会が行われ、「OECD から見た日本の家族政策—働き方・少子化対策・男女平等の観点から—」の題目の下、家族政策の目的、社会経済的文脈、政策ツール、政策課題、の4つのトピックが取り上げられた。同氏が中心となり構築してきた国際比較データより日本の特徴が示されるとともに、OECDにおける家族・ジェンダー政策研究に基づく豊富な知見が披露され、我が国の政策を考える上で示唆に富む講演であった。厚生労働省・社人研と一般から60名以上が参加し、会場は満席、終了後も質問者が列を成す盛況ぶりであった。本講演会は、厚生労働省国際課との共催で行われ、同省よりOECDへ出向中の小野田知子氏の協力を得た。

(竹沢純子 記)

日本地理学会2019年春季学術大会

日本地理学会2019年春季学術大会は、2019年3月20~22日(22日は巡検のみ)、専修大学生田キャンパス(神奈川県川崎市)において開催された。今回の大会では「人口」のセッションが2つ設けられ計13の報告が得られるなど、人口をテーマとした研究が比較的目立ったが(報告数が多かったため